

第三百二十二話 潔く、肅々と日本（軍）らしい降伏！

日本政府および連合軍代表が「降伏文書」に調印したのは、昭和20年9月2日（1945/9/2）であり、この日以後各戦場にある日本軍は連合軍の指定する軍との間で降伏文書に調印した。軍の降伏式というと、まず浮かぶのは日露戦争旅順開城における乃木大将とステッセル將軍の水師營の会見（1904/1/4）、マレーの虎と称された山下大将の「イエスカノーカ？」（実際は敵將を脅迫したのではなく通訳に確認したのみ。）、赤穂城の引き渡しや戦国時代等の日本武士の降伏式である、大東亜戦争の降伏はどんな色合いを持っていたのだろうか？

1 ミズリー艦上の降伏調印式（1945/9/2）



マニラのマッカーサー司令部から軍使河邊虎四郎参謀次長が持ち帰った降伏文書の内容について一悶着はあったものの、決着した。日本側からは、天皇及び政府を代表して重光葵外相、大本營を代表して梅津美治郎陸軍参謀総長（豊田軍令部総長は参加拒否？）が全権として、連合軍側全権代表団は、英、豪、加、中華民国、米、仏、蘭など17か国の代表団に加え、あろうことかソ連の代表団も参加臨席した。盗人に追い銭みたいだ。

2 外地等にある日本軍の降伏

米統参本部が作成し、トルーマン大統領が認可した命令「一般命令第一号」に基づき、マ大将は、連合軍最高司令官指令第1号を指令（1945/9/2）し、大本營は、日本軍に、指定された連合軍司令官に降伏降伏するように命令した。その概要は以下の通りである。

- 日本本土、沖縄、38度線以南の朝鮮：米太平洋陸軍最高司令官
- 日本国委任統治諸島、小笠原、その他の太平洋の諸島：米太平洋艦隊最高司令官
- 満州、38度線以北の朝鮮、南樺太、千島列島：ソ連極東軍最高司令官
- 中国、台湾、北緯16度以北の仏印：蒋介石
- ボルネオ、英領ニューギニア、ビスマルク諸島、ソロモン諸島：豪陸軍最高司令官
- 上述以外：東南アジア軍司令部最高司令官

3 降伏の諸相（産経新聞社編「あの戦争（下）」192項を参考に）

(1) 飢餓に直面している部隊等の早期調印と復員

マーシャル諸島のミレ島を皮切りに降伏文書の調印が進んだ。

(2) 調印を急いだ14方面軍司令官山下大将

ルソン島の山下大将は南方軍の指示を待たずに下山し9月3日バギオでの調印式に臨んだ。「一日延ばせば、それだけ兵が死ぬ。」として調印を急いだのだ。

この調印式には、前日東京湾に居たウェンライト（コレヒドールの敗将）、パーシバル（シンガポールでの敗将）両將軍が急遽参加した。その意は？

(3) 南方軍の強気の降伏要求

70万の兵力を有する南方軍は、英軍に対し武装したままの降伏などを要求し、一部は認められた。が、二度目の降伏式を強要され、意趣返しされた。

(4) 他の戦域での降伏調印に臨んだ7名の陸海将官も屈辱を味わったとされる。

4 若干の所懐

- (1) 降伏調印式は意趣返し・復讐の絶好の場か？降伏相手の尊厳を重んじる降伏は在り得ないのか？無条件降伏が因？民族性？道義や戦い相手に尊厳はないものか？
- (2) ソ連軍の参加を承認したのは、戦後国際政治からは全くの愚策である。
- (3) 日本の武士道精神や西洋のナイト精神は連合軍にはなかったのだろうか？
- (4) 日本軍は壊乱・自壊せず、自暴自棄になることなく肅々と降伏した。

(了)